



第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 日本館展示

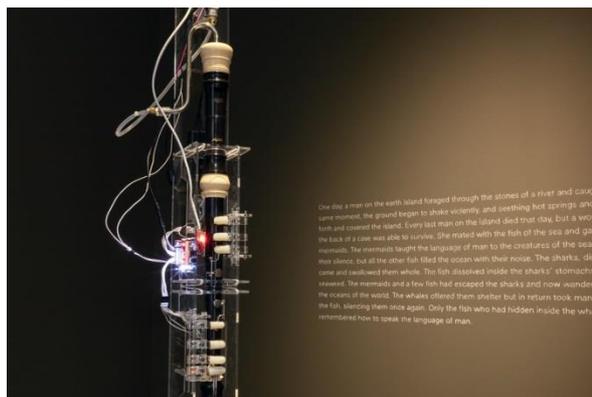
「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」

～美術家、作曲家、人類学者、建築家によるコレクティブ～

国際交流基金は、イタリア・ヴェネチアで2019年5月11日から11月24日にかけて開催される「第58回ヴェネチア・ビエンナーレ 国際美術展」に参加し、日本館展示を主催いたします。

キュレーターを務めるのは服部浩之氏、展示タイトルは「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」と題し、美術家下道基行氏、作曲家安野太郎氏、人類学者石倉敏明氏、建築家能作文徳氏という異なる専門分野で活躍する4名のアーティストによる作品展示を行います。

一般公開に先立ち、現地日本館にて、2019年5月8日にオープニングレセプションを、5月8日から10日まで内覧会を行います。ぜひ、貴媒体にてご取材・ご掲載を賜りたく、ご案内申し上げます。



Installation View of Cosmo-Eggs
Photo by ArchiBIMing

記

事業名称 : 第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 日本館展示
主催 : 独立行政法人国際交流基金
開催日程 : 2019年5月11日(土)～11月24日(日)
展示タイトル : Cosmo-Eggs | 宇宙の卵

レセプション : 2019年5月8日(水) 午後4時～(現地時間)
内覧会 : 2019年5月8日(水)～10日(金)
会場 : 日本館(ビエンナーレ会場のジャルディーニ二地区内)

Padiglione Giappone, Giardini della Biennale, Castello 1260, 30122 Venezia

ご出席いただける場合は、専用フォーム (<https://goo.gl/forms/c9hkUdOVjkArsDwz2>) からお申し込みください。フォームがご利用にならない場合は、venezia@jpf.go.jp までお申し込みください。(締切: 2019年5月5日)

この件に関するお問い合わせ :

国際交流基金 コミュニケーションセンター (広報担当: 熊倉、原田)

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp



また、報道関係者の内覧会の参加には、ヴェネチア・ビエンナーレ公式 website から事前のプレス登録が必要となります。登録・詳細は右記公式ウェブサイトをご覧ください。https://www.labiennale.org/en/press
(登録締切：現地時間 2019 年 4 月 27 日)

主な内容：

第 58 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展において、「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」と題した日本館展示を主催いたします。服部浩之氏のキュレーションの下、美術家下道基行氏、作曲家安野太郎氏、人類学者石倉敏明氏、建築家能作文徳氏 4 名のアーティストによる作品展示を行います。「私たちはどのような場所でどのように生きることが可能か」というキュレーターとアーティストの問題意識を背景とし、異なるものの多様な「共存」のかたちを探求します。本展では、世界各地に存在する巨石「津波石」を出発点に、映像や資料、音楽、空間構成などによって、人間の存在や行為と地球の時間や存在を重ねながら考察しようとするものです。

キュレーター：服部浩之 (Hiroyuki Hattori) キュレーター、秋田公立美術大学大学院准教授

アーティスト：下道基行 (Motoyuki Shitamichi) 美術家

安野太郎 (Taro Yasuno) 作曲家

石倉敏明 (Toshiaki Ishikura) 人類学者、秋田公立美術大学准教授

能作文徳 (Fuminori Nousaku) 建築家、東京電機大学准教授

特別助成：公益財団法人石橋財団

協賛：一般財団法人窓研究所、gigei10

協力：キヤノンマーケティングジャパン株式会社、キヤノンヨーロッパ、大光電機株式会社

以上

キュレーターからのステイトメント：

協働における共振や不協和の折重なりから共存のエコロジーを問う

本プロジェクトは、美術家、作曲家、人類学者、建築家という 4 名の表現者を中心とした協働により、私たちはどこでどのように生きることができるかを思考し、人間と非人間が共存するエコロジーを想像するためのプラットフォームを築く試みだ。日本列島は自然災害の多発地帯で、2011 年の東日本大震災では大津波による原発の大破という近代化の歪みを経験した。資本主義が地球を覆い、人間活動の爆発的な増大がもたらす新たな地質時代の到来に関する議論が活発化するなかで、地表面の薄皮程度の空間に暮らす人間の活動が地球環境に甚大な影響を与えていることを、いかに考えるべきだろうか。

本展は、美術家下道基行が沖縄の宮古列島や八重山諸島で出会い、数年間撮影を重ねてきた《津波石》を起点とする。津波石とは、津波によって海底から地上へと動かされた巨石で、人々の生活の隣にありながら、植物が育ち、渡り鳥が巣をつくるコロニーとなるものもある。

作曲家安野太郎は、人間の呼吸不在でリコーダーを自動演奏する音楽《ゾンビ音楽》で鳥のさえずりのような音楽

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター (広報担当：熊倉、原田)

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp



を奏でる。日本館ピロティから展示室まで突き抜ける巨大なバルーンが、リコーダーへ空気を供給する肺の機能を果たす。

「宇宙の卵」というタイトルは、世界各地に伝わる卵生神話に由来する。神話研究を専門とする人類学者石倉敏明は、琉球や台湾などアジア各地に伝わる生成や崩壊にまつわる津波神話を参照し、人間と非人間の関係を再考する新たな神話を創作する。

吉阪隆正設計の日本館は、正方形平面の中央の屋根に天窓、床に孔が穿たれ、周囲に4本の柱が螺旋状に配された構成で、ル・コルビュジエの無限成長美術館を想起させる。建築家能作文徳は、この建築を読み解き、異分野の作品群をつなぐとともに、それらと建築空間との応答関係を築き、統合的な空間体験へとひらく。

《津波石》の映像は1点ずつ独自の時間でループし、《ゾンビ音楽》は自動生成により常に変化し、複数の場所に多様な共存の物語が刻まれる。映像・音楽・言葉や空間全体が見事に調和し共振することもあれば、逆に全てが不協和音を奏でるようにせめぎあい衝突する瞬間もあるだろう。異なった能力をもつ表現者による異質な創作物を異質なまま重ねることで生成変化を続ける場をひらく「協働」を通じて、共生・共存のエコロジーを問う。

プロフィール：

服部浩之 Hiroyuki Hattori (1978年、愛知県出身)

2006年、早稲田大学大学院修了(建築学)。2009年-2016年、青森公立大学国際芸術センター青森[ACAC]学芸員。2017年より、秋田公立美術大学大学院准教授。アジアを中心に展覧会、リサーチ、プロジェクトなどを展開し、芸術と公共空間の関係を探求している。近年の企画に、「MEDIA/ART KITCHEN」(インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、日本(青森)、2013-2014)、「あいちトリエンナーレ 2016」、「ESCAPE from the SEA」(マレーシア、2017)、「近くへの遠回り」(キューバ、2018)など多数。

下道基行 Motoyuki Shitamichi (1978年、岡山県出身)

2001年、武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒。2015年、豊田市美術館ライブラリーにて、また2016年には黒部市美術館にて個展を開催。「光州ビエンナーレ 2012」(韓国)、「Asian Art Biennial 2013」(台湾)、「あいちトリエンナーレ 2013」、「岡山芸術交流 2016」、「ESCAPE from the SEA」(マレーシア、2017)などグループ展への参加多数。光州ビエンナーレ 2012ではNOON芸術賞(新人賞)を、2015年、さがみはら写真新人奨励賞を受賞。

安野太郎 Taro Yasuno (1979年、東京都出身)

2002年、東京音楽大学作曲専攻卒。2004年、情報科学芸術大学院大学(IAMAS)修了。2008年-2010年、東京藝術大学音楽環境創造科教育研究助手。現在、日本大学芸術学部、東京造形大学非常勤講師。2014年「死の舞踏」(京都芸術センター)、2017年「『大霊廟 II』-デッドパフォーマンス」(BankART)にて個展・ソロコンサートを開催。2015年「TOKYO STORY」(トーキョーワンダーサイト)、「ゾンビオペラ『死の舞踏』」(Festival/Tokyo15)、2016年「Our Masters 土方巽/異言」(Asia Culture Center, 韓国)、2017年「Radio Azja」(Teatr Powszechny, ポーランド)などグループ展・フェスティバルへ多数参加。2013年 第7回

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター (広報担当：熊倉、原田)

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp



JFC 作曲賞第 1 位、2017 年 清流の国ぎふ芸術祭 Art Award In the CUBE 2017 高橋源一郎賞、2018 年 KDCC2017 奨励賞を受賞。

石倉敏明 Toshiaki Ishikura (1974 年、東京都出身)

2010 年、中央大学総合政策研究科博士後期課程単位取得後退学。2009 年-2011 年、多摩美術大学芸術人類学研究所助手。2011 年より、明治大学野生の科学研究所研究員、2013 年-2016 年、秋田公立美術大学美術学部専任講師。2017 年より、秋田公立美術大学美術学部准教授。共著に、「野生めぐり 列島神話をめぐる 12 の旅」田附勝写真 (淡交社、2015)、「Lixicon 現代人類学」奥野克己共編 (以文社、2018) など多数。

能作文徳 Fuminori Nousaku (1982 年、富山県出身)

2012 年、東京工業大学大学院建築学専攻博士課程修了 (工学)。2008 年、Njiric+Architekti (クロアチア)。2010 年より、能作文徳建築設計事務所。2012 年-2018 年、東京工業大学建築学系助教。2018 年より、東京電機大学未来科学部建築学科准教授。主な作品に、「高岡のゲストハウス」(2015)、「Bamboo Theater」(フィリピン、2017)、「西大井のあな 都市のワイルド・エコロジー」(2017-) など多数。また、2013 年 SD レビュー-2013 鹿島賞、2016 年 第 15 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展日本館展示特別表彰、2017 年 SD レビュー-2017 入選、など多数受賞。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター (広報担当：熊倉、原田)

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp